

あめ 飴だま



げんさく にい み なんきち
原作：新美南吉

かんやく たなかま み
簡約：田中麻美

てつだ ひと たばた みつえ
手伝ってくれた人：田畑サンドーム光恵

イラスト：AC イラスト <https://www.ac-illustr.com/>

はる ひ ふたり ちい おんな
春のある日のことです。二人の小さな女
こ つ かあ つよ さむらい
の子を連れてお母さんと、強そうな侍が
わた ぶね の
渡し舟に乗っていました。



ひ あたた
その日はぽかぽかと暖かったので、
さむらい いねむ
侍はこっくりこっくり居眠りをしはじめ
ました。それを見てもふたりのおんなこ
わら
すと笑いました。



お母^{かあ}さんは二人^{ふたり}に、「しずかにしなさい」と言^いいました。侍^{さむらい}が怒^{おこ}ったら大^{たい}変^{へん}だからです。二人^{ふたり}はしずかになりました。

しばらくすると、一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こが「お母^{かあ}さん、飴^{あめ}だまちょうだい」と言^いいました。するともう一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こが「お母^{かあ}さん、わたしにも」と言^いいました。ところが、飴^{あめ}だまは一つ^{ひとつ}しかありません。



「わたしにちょうだい」

「わたしにちょうだい」

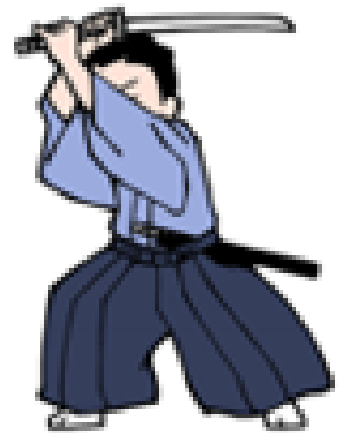
おんな こ こえ さむらい め さ
女の子たちの声で、侍が目を覚ましま
した。お母さんは侍を怒らせてしまった
おも
と思いました。

すると、さむらい かたな も おんな こ
すると、侍は刀を持って、女の子た
ちの前まで来て言いました。



あめ だ
「飴だまを出せ!」

かあ あめ だ
お母さんはおそるおそる飴だまを出しまし
た。



すると、^{さむらい}侍^{あめ}は飴だまを^{かたな}刀でパチンと^{ふた}二
^わつに割りました。



そして、「それ」と^い言^ふって、二人の^{ふたり}女^{おんな}の
子^こに^わ分^わけてあげました。それからさっきま
でいたところ^{もと}に戻^もって、また、こっ
っ^{ねむ}くり眠^{ねむ}りはじめました。

